

養殖魚等の履歴表示システムの開発（その2）

長崎県総合水産試験場
環境養殖技術開発センター 養殖技術科

はじめに

本県では平成15年から総合水産試験場と工業技術センターが共同で、食の安全・安心をはかるため、「養殖魚等の履歴表示システムの開発」に取り組んでいることについては、漁連だより平成16年11月号で紹介しました。

本年は当事業の最終年度となり、ほぼシステムが完成し、公開実証試験を平成17年11月4～5日に実施しましたので、システムの概要を紹介します。

実証試験の実施概要

実施日 平成17年11月4～5日

実施養殖魚 対馬市美津島町 養殖ヒラマサ
新上五島町若松 養殖ハマチ
長崎市戸石 養殖トラフグの身欠き加工品

実施場所 長崎漁港加工団地協同組合(長崎市三京町)

浜新水産(長崎市戸石)

ヤマス(長崎市三京町)

夢彩都(長崎市元船町)

公開 販売



(写真) 夢彩都売り場(公開会場)

個別管理システム

生産者および出荷者

生産者は稚魚の履歴、薬品の使用状況、餌の使用状況等を養殖日誌にきちんと記帳し、出荷の際には、県かん水で申し合わせた「養殖履歴書」を「インターネット」を通じてサーバーに送信する。

また魚一尾一尾に「大量装着機」(製作中)で「ICタグ」を装着し、魚体重量測定時に書き込み機によりタグに重量を書き込みサーバーに送信し、箱詰めする。(数尾入りも可)



「大量読み取り機」に箱詰めのまま通し、出荷時刻を送信。



流通業者

「大量読み取り機」に箱詰めのまま通し、入・出荷時刻等をサーバーに送信

刺身等に加工

「大量読み取り機」に箱詰めのまま通し、入・出荷時刻等をサーバーに送信

加工する魚についた IC タグから個別番号を読み取り、インターネットを通じてサーバーに登録されたデータを取り、2次元バーコードラベルを印刷し、刺身パックに添付



量販店等での販売

店頭に「バーコード読み取り機」とモニターテレビを設置し、消費者にインターネットの情報（生産履歴・流通履歴等）を表示

消費者

店頭において、モニターテレビ等で商品情報を確認

自宅等にて携帯電話、インターネット等で商品情報を確認



おわりに

この個別管理のモデルシステムも大量タグ装着機の製作完了で完成となりますが、流通業界等において器材・実施体制が整備されないと実用化は出来ません。このため長崎県だけではなく、広範囲で活用されるシステムが必要となります。

今年度から、農林水産省が統合型オール水産の履歴表示システムを検討する事業を実施しています。今後はこうした国等の事業との連携も視野にいれて、より使いやすい水産の履歴システム構築が必要と思われます。

（科長 高田純司）